

読書活動推進のための具体的な方策

家庭 <取り組み>

(1) 家庭での取組の推進

子どもが乳幼児期から本にふれることができる環境を整え、図書館から配布されるブックリストや読書手帳を活用し、良書を子どもに読み聞かせます。テレビやスマートフォンなどの使用を控え、大人も自ら本を読み、家族で読書を楽しむ習慣をつくります。

家庭での読書



(2) 各種おはなし会への積極的な参加の推進

図書館や子育て支援施設などで行われるおはなし会や講座に積極的に参加し、子どもが本とふれあう機会を増やします。

学校 <取り組み>

(1) 図書室の整理と充実

司書教諭、学校司書を中心に、現在の図書室の整理を進めます。具体的な選書の方針を定めて、それぞれの学校に合ったバランスの良い蔵書を構築します。図書の配架の仕方や掲示物など、児童・生徒も参加して、楽しく利用しやすい環境を整えます。

ボランティアによる読み聞かせ



(2) 図書館、ボランティア団体等との連携

保護者やボランティア等による読み聞かせ、図書館員によるブックトークなど、地域の支援協力体制をつくります。

町立図書館 <取り組み>

(1) 蔵書の充実・環境整備

基本図書の他に、多様な本の選定・収集に努め、季節ごとにテーマを決めての展示や図書館員のすすめる本の紹介を行うなど、豊かな読書環境の創造に努めます。

(2) 幼稚園・保育園への支援

幼稚園・保育園や子育て支援施設との連携を深め、乳幼児期から子どもが読書に親しめるように、団体貸出や読み聞かせなどを行います。

(3) 学校への支援

学校との連携を強化し、学校図書室の整備と内容の充実を支援します。また、団体貸出や図書館員によるブックトークなども行います。授業や行事に必要な本の選書・貸出を推進します。児童・生徒の見学や社会体験を積極的に受け入れます。

(4) 自主的な読書活動の支援

広報等でのおすすめの本の紹介、ブックリストや読書手帳・読み聞かせ手帳の配布など、自主的な読書活動を支援します。

(5) 子育て支援サービスの推進

館外に出張しての読み聞かせ活動や、子育て支援施設への定期的な団体貸出など、サービスの範囲の拡大に努めます。

(6) 人材の育成

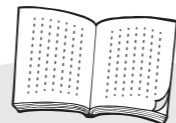
職員を児童サービスに関する研修等へ積極的に参加させ、技能の習得を図ります。読み聞かせなどを学ぶ講座等を開催し、新たなボランティアを育成します。また、ボランティアに積極的に研修等の参加を促し、その支援を行います。

ボランティアによるおはなし会



当計画は、町HPにおいて掲載していますので、ご覧ください。

問合せ 知識の森 嵐山町立図書館 ☎62-6989



子どもたちを有意義な読書活動に導くためには、子どもが成長していくあらゆる場で早期から環境を整えていくことが大切です。当町ではこれまでにも、子どもに係る様々な場で、読書活動の推進を行ってきました。その成果や課題を検証・抽出し、体系化する事によって、今後さらに子どもの読書活動を推進するために当計画を策定しました。

計画の基本方針

基本方針

3つを基本方針

- ① 子どもが本に親しむための機会の提供と環境づくり
- ② 家庭・学校・地域の連携と協働
- ③ 子どもの読書活動の普及・啓発

計画の対象

この計画の対象となる「子ども」とは、0歳からおおむね18歳とします。

計画の期間

この計画は平成30年度から5年間とします。

計画の成果目標

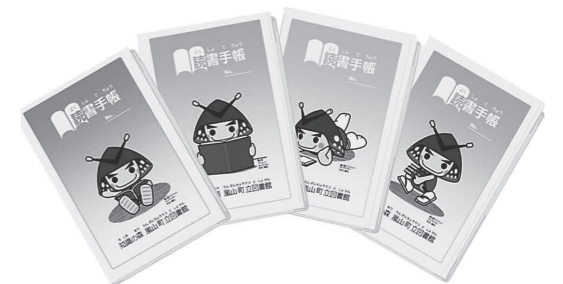
5年後の目標

- ① 読書好きの子どもを増やします。
本を読むことが「好き」と答える子どもの割合を増やします。
平成29年度3学年平均 約54.4%^(※1)
➡ 60%以上
- ② 学校の図書室に「よく行く」「たまに行く」と答える子どもの割合を増やします。
平成29年度3学年平均 約43.9%^(※1)
➡ 50%以上
- ③ 町立図書館での児童書の貸出冊数を増やします。
1年間の町立図書館での児童書の子ども1人当たりの貸出冊数を増やします。
平成28年度 約10.7冊^(※2)
➡ 12冊以上

展示コーナー



読書手帳



(※1) 町内の小学3年生・6年生、中学2年生を対象に、平成29年10月実施のアンケート調査結果による平均値

(※2) 年間の児童書の貸出冊数(団体を含む)÷年度末現在0~18歳人口
児童書には、ヤングアダルトを含みます。